



「外為短期投資家動向調査」結果

<第33回調査>

2012年2月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2012年2月14日(火)13:00～2012年2月21日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は976件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

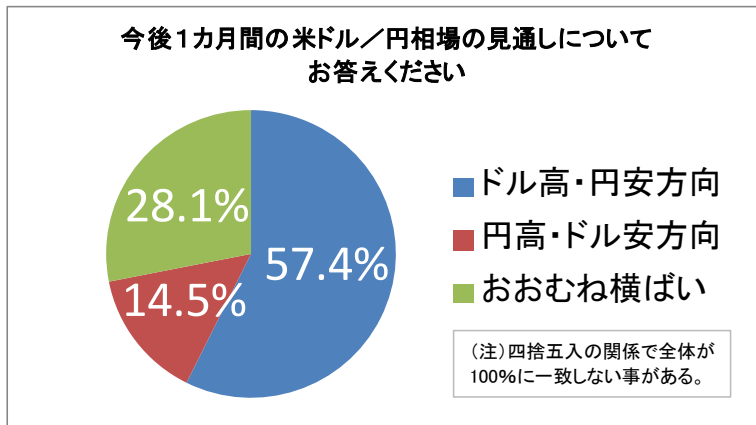
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第33回調査結果略報：ドル円DIは過去最高のドル強気・円弱気に】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

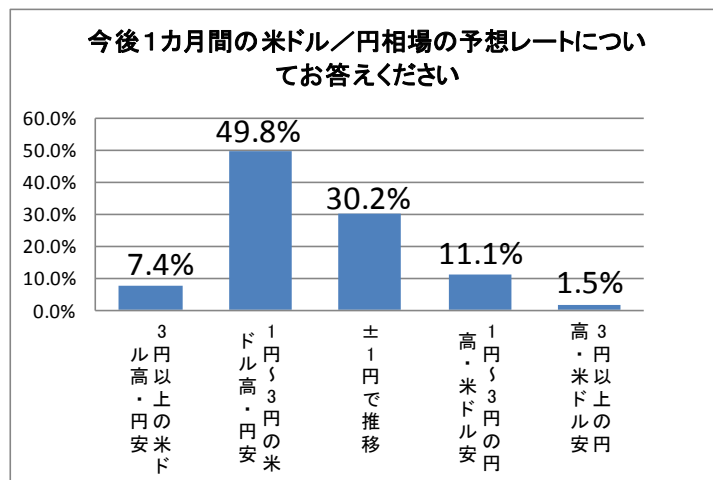
「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が57.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が14.5%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+42.9%ポイントとなり、前回調査からプラス幅が大きく拡大して過去最大のプラスDIとなった。調査期間中のドル円相場は、日銀による予想外の追加緩和や1月の本邦貿易収支が過去最大の赤字を計上したことなどから円が売られ、77.35円から79.89円のレンジで堅調に推移した。こうしたファンダメンタルズ面に加え、テクニカル面からも、2007年高値からの上値抵抗ラインを上抜けるなど下落局面の終了を示唆するサインが出ており、FX投資家のドル高・円安予想につながったものと思われる。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

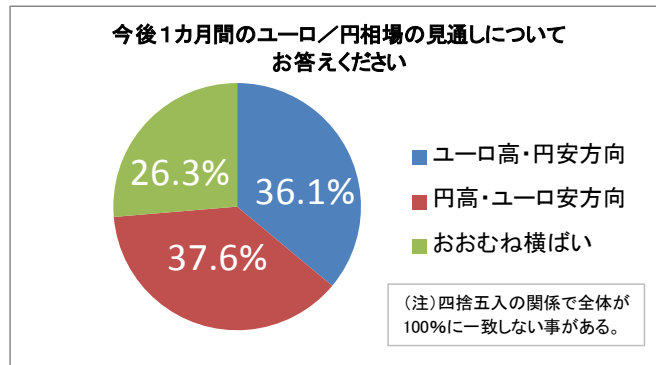
「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が49.8%と最も多く「±1円で推移」が30.2%、次いで「1円～3円の円高・米ドル安」が11.1%、「3円以上の米ドル高・円安」が7.4%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.5%の順になった。ヒストグラムの形状はドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。調査期間中のドル円の終値平均である79.08円から考えると、FX投資家による今後1カ月間の予想(コア)レンジは78.00-82.00円程度ということになる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

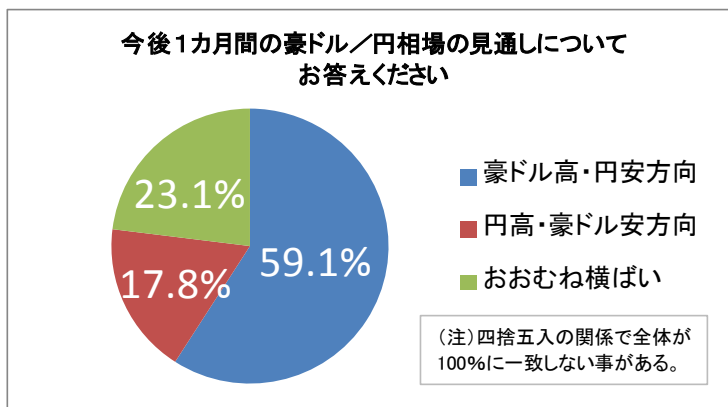
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が36.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が37.6%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲1.5%ポイントとなり、前回調査(▲48.0%ポイント)からマイナス幅が大きく縮小して2011年4月以来のプラスDIまであと一息のところまで改善した。調査期間中のユーロ円相場は、101.80円から106.00円のレンジで堅調に推移したが、ギリシャの「無秩序なデフォルト」懸念は後退したとはいえ、同国の緊縮財政政策が約束どおり実行されるのかなど、今後の課題も山積している。こうした中でユーロ円弱気見通しの大幅な改善は、円に対する弱気予想が強まった事が主因であると考えられる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル円/相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が59.1%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が17.8%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+41.3%ポイントとなり、前回調査の+15.8%ポイントからプラス幅が拡大して2010年6月以来の豪ドル強気・円弱気予想となった。調査期間中の豪ドル/円相場は、82.76円から86.33円のレンジで堅調に推移した。円に先安感が台頭した事に加え、米国や中国の景気減速懸念が後退した事から世界的に株価が上昇するなど、リスク・オンのムードが広がった事がFX投資家の豪ドル強気・円弱気予想を後押ししたと見られる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

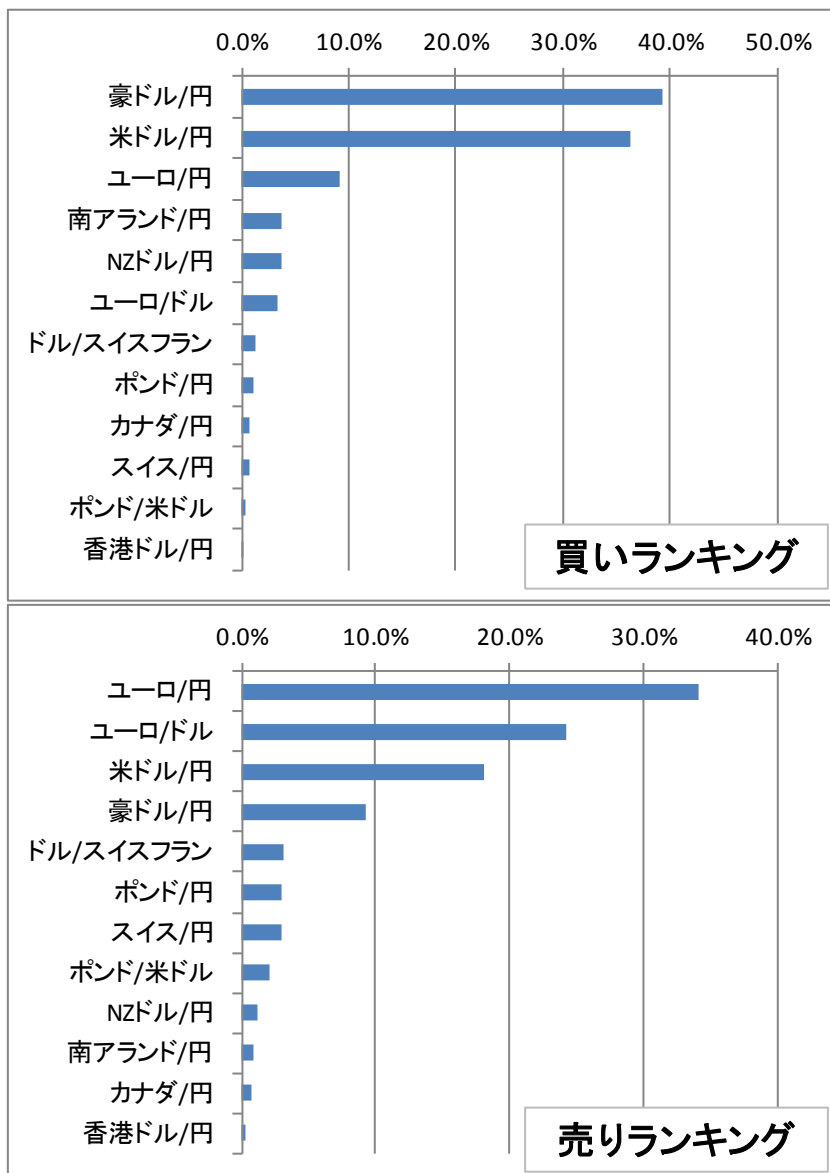


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(39.3%)、2位ドル円(36.3%)、以下3位ユーロ円(9.1%)、4位南アランド円(3.8%)、5位はNZドル/円(3.7%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(34.1%)、2位ユーロドル(24.2%)、3位ドル円(18.0%)、4位豪ドル円(9.2%)、5位ドルスイス(3.2%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、豪ドル/円が1位、僅差の2位がドル円と、前回調査から目だった変化は見られない。一方、「売り」で注目の通貨ペアについても、ユーロ/円とユーロ/ドルが1、2位を占めており、ユーロ弱気のスタンスに変化は見られない。これは、問3の結果でユーロ弱気予想が大きく減少した原因が、円に対する弱気予想の増加である、という見方を裏付けるものであり、引き続きユーロの戻り売りを狙うFX投資家が多数存在している事が改めて確認された。

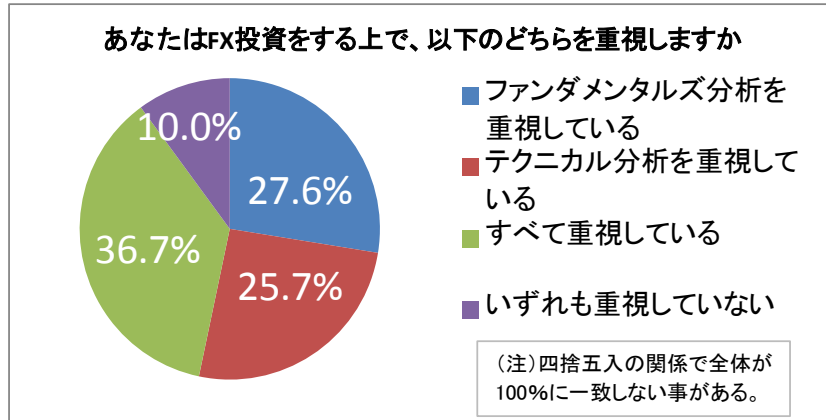


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

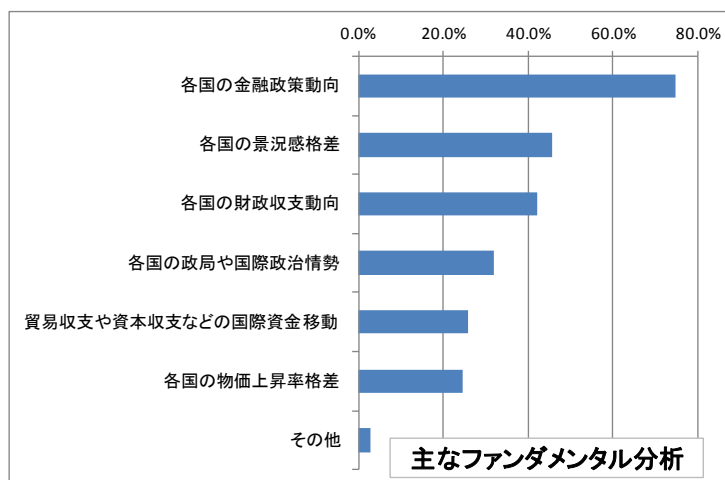
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.6%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が25.7%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.7%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.0%であった。調査開始以来3年近くになるが、こうした回答割合に目立った変化は見られない。FX投資家の分析スタイルは、相場動向には左右されにくく、ほぼこの割合で固定化されていると見てよさそうだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(74.9%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(45.7%)」、「各国の財政収支動向(42.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(31.9%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(25.8%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めた。為替相場を動かす最大の要因のひとつが「金利差」であり、「各国の金融政策動向」に最も注目が集まる傾向は調査開始以来変わらない。その一方で、「貿易収支や資本収支など・・・」が前回調査(20.3%)から回答割合を伸ばしている。足元で、日本の貿易赤字拡大や経常収支の悪化が円売り材料になっている事と無縁ではないだろう

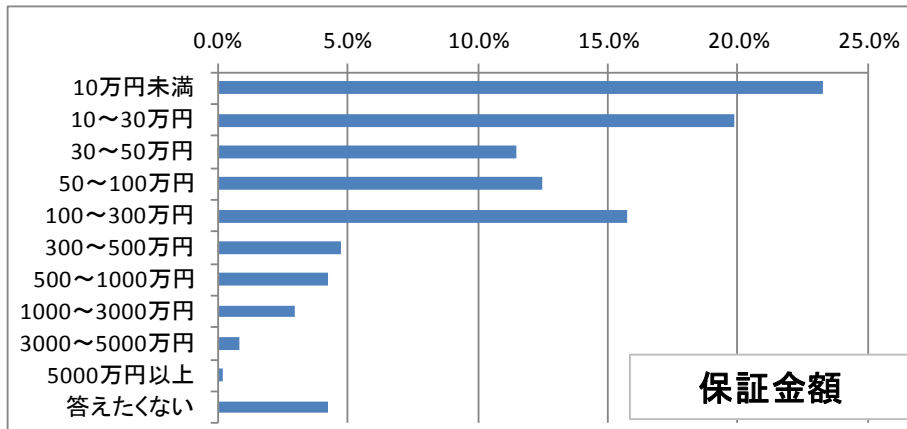


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

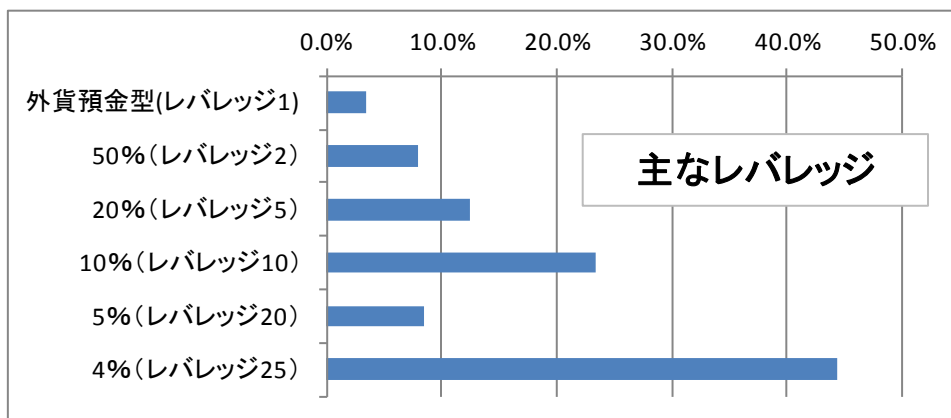
問8:FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が23.3%と最も多く、以下「10～30万円(19.9%)」、「100～300万円(15.8%)」、「50～100万円(12.5%)」と続いた。前回調査と概ね同じ結果となっており、100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合が67.2%と高い一方で、1000万円以上の保証金で取引を行うと答えた合算割合は4.0%にとどまった。小額の保証金で取引が可能というFXの特性を良く表しており、改めてFX投資家の裾野の広さを感じさせる結果となった。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が44.4%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が23.4%、「20%(レバレッジ5)」が12.5%と続き、ここまでで80%を超える。以下、「5%(レバレッジ20)」が8.4%、「50%(レバレッジ2)」が7.9%と続いた。昨年8月のレバレッジ規制以降、「4%(レバレッジ25)」が半数近くを占め、「10%(レバレッジ10)」がそれに続くという傾向が続いている。FX投資家のレバレッジ選択も、相場動向に左右されにくいと言ってよいだろう。ちなみに、FX投資家が活用するレバレッジの加重平均値は約16.5倍となっている。

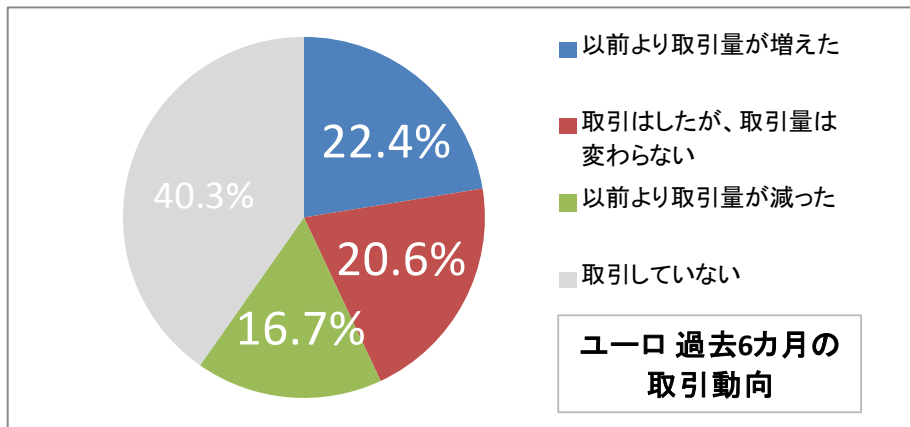


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

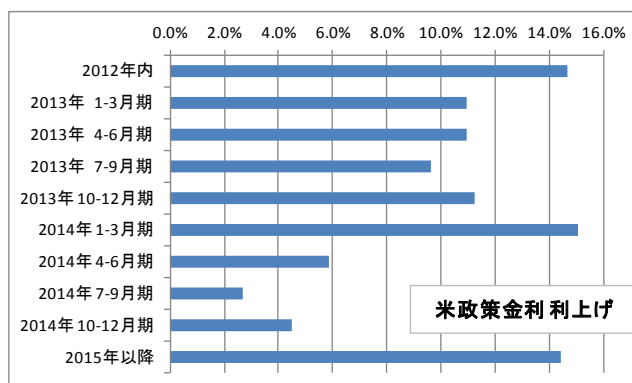
**問10:ここ6カ月の、ユーロ円、ユーロドルの取引についてお答えください(ひとつだけ)
また、その理由をコメント欄にお書きください**

今月の特別質問項目として、ここ6カ月の、ユーロ円、ユーロドルの取引についてお答えください(ひとつだけ)とたずねたところ、「取引していない(40.3%)」が最も多く、「以前より取引量が増えた(22.4%)」、「取引はしたが、取引量は変わらない(20.6%)」、「以前より取引量が減った(16.7%)」と続いた。FX投資家の約6割が、荒れ模様の相場展開が続いたユーロの取引に参加していた事になり、改めて欧州債務問題に対する関心の高さを感じさせる結果となった。なお、取引量が増えた理由として「債務問題に関する情報量が多く、取引しやすい」「変動が大きく収益機会が多い」などがあげられた一方で、「値動きが不安定すぎて多額の取引は危険」との理由から取引を減らしたFX投資家もいるなど、ユーロに対する見方が二極化している点が特徴的だ。



問11:米連邦準備制度理事会(FRB)による、政策金利の引き上げの時期は?(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、米連邦準備制度理事会(FRB)による、政策金利の引き上げの時期は?(ひとつだけ)と尋ねたところ、かなり回答割合にばらつきが見られたが、「2014年1-3月期(15.1%)」と答えた割合が最も多く、以下、「2012年内(14.7%)」、「2013年10-12月期(11.3%)」と続いた。米FOMC声明で、ゼロ金利を続ける可能性が高いとした2014年終盤よりも早い段階での利上げを予想する合算割合は81.2%に達した。こうした米国経済に対する楽観的な見方が、問1でドル円予想DIが過去最大のプラスを記録した一因であるといえるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第33回目となりました。調査開始後2年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

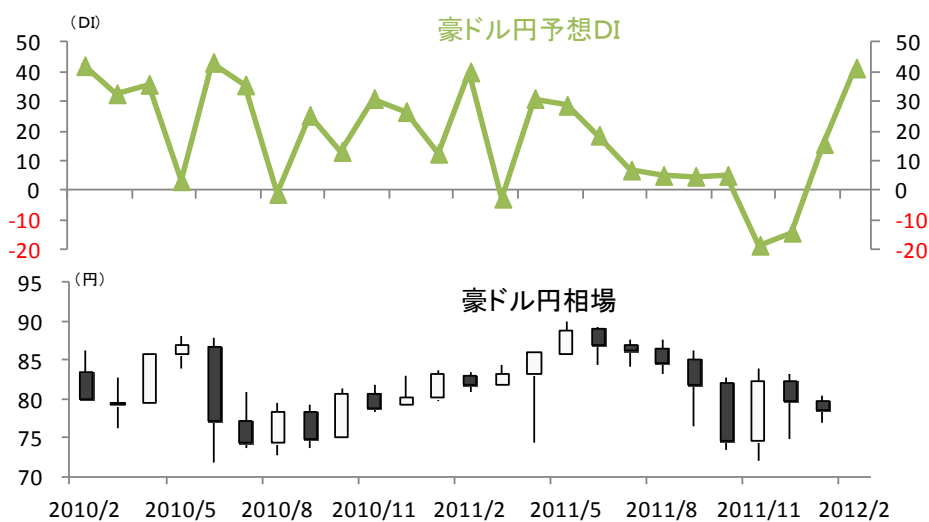
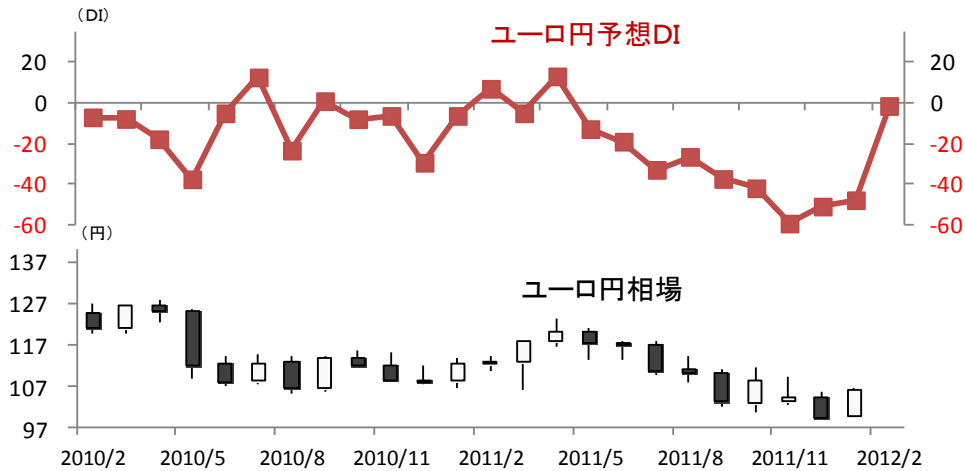
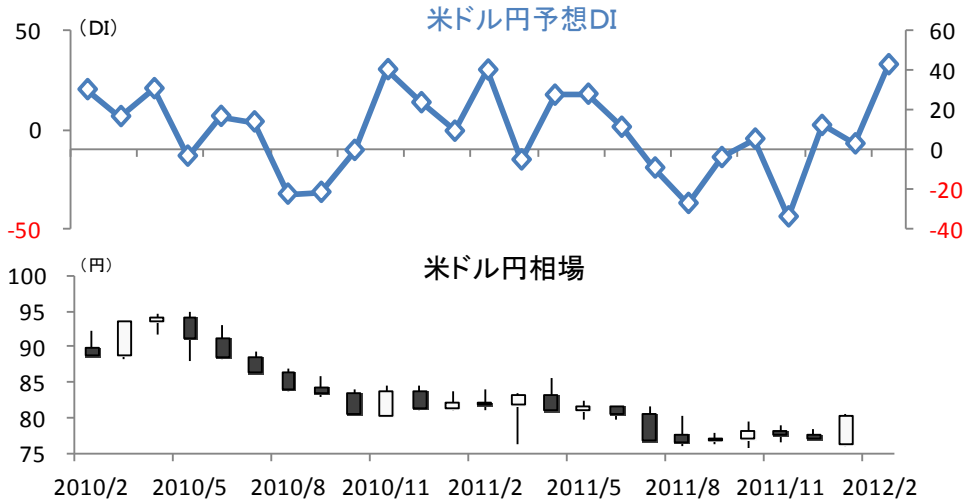
		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
2011年	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
	2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7
2月		57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com